

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連 (北海道)	良く なっている	観光名所（従業員）	来客数の動き	・4月27日までの集計によれば、利用客数が前年から約1万1千人の増加で14.3%の伸びとなっている。こうした前年比プラスの動きが、今月を含めてすでに1年以上続いている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・春になり観光客の来訪とともに輸送量が増加している。
	やや良く なっている	スーパー（店長）	それ以外	・3月は消費税増税前の駆け込み需要により売上が大きく増加し、その反動で4月は売上が減少しているため、現状では景気の判断は難しい状況にある。
		旅行代理店（従業員）	単価の動き	・平日は相変わらず閑散とした日もあるが、土日は海外旅行、国内旅行の申込みが増えている。金額だけではなく、内容重視の相談も多く、結果的に単価の高い商品も売れている。
		通信会社（企画担当）	お客様の様子	・競合他社のサービスに乗換える客が減るとともに、当社のサービスに対して好感を示す客が増えている。販売状況も徐々に好転している。
変わらない		商店街（代表者）	お客様の様子	・消費税増税が話題となっているが、飲食店の多い当商店街では、客が消費税増税をシビアに捉えて店舗を利用することは少ない。また、店側も現状は価格を上げずに企業努力で対応している。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・消費税が上がったが、客の動きは以前と大して変わらない。世間では安売りをかけて、消費の落ち込みに何とか対抗しようとしているが、なかなか思うようにいかないのが現状である。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・消費税増税が駆け込み需要を誘発していたことで、予想していたように4月の前半は最悪な状況であった。ただ、消費税が5%に上がった時よりはひどくない。飲食店では、4月の歓送迎会シーズンが進むにつれて客が増えるなど、週末は比較的混雑した。一方、物販については、平常の状態に戻るまで3か月くらい掛かる。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・今月前半は消費税増税の影響もあり、非常に売上が悪く、10日ごろまでは前年比80%程度で推移していた。ただ、その後の回復が意外と早く、後半になってから盛り返してきている。月全体では普段の月とあまり変わらない売上となっている。
		スーパー（役員）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動により、4月前半の売上は苦戦したが、20日以降はほぼ通常の状態に戻ってきている。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・現時点では景気を読みづらい段階にあるが、ゴールデンウィークが近づいた辺りから来客数が回復傾向にあり、売上も前年を上回る日がみられ始めている。
		コンビニ（オーナー）	販売量の動き	・中国人観光客の増加が目立っており、そのことが売上にもプラスとなっている。
		衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・4月前半は消費税増税の影響で商店街に買物客の来店が少なかった。当初、着物の販売は増税とは関係ないとみていたが、特売セールを行っても客の来店が少なく、売上も減少していた。ただ、20日過ぎに開催した奄美大島紬の催事は来客数も売上も良かった。
		衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・消費税増税前は、客の様子として新調に対する需要が高く、駆け込み需要も相まって前年を上回る売上となった。その反面、4月に入ってから、売上が前年より大幅に下回るなど、消費税増税に対する客の節約意識の高まりから好景気とは言えない状況にある。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動により、販売量が前年比80%程度となった。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・消費税増税の前後で差がみられる。増税後は当店が入居している商業施設自体の集客率も下がっているため、当店の来客数も減っている。

高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・4月1日から4月20日までの期間で創業記念イベントを行ったこともあり、4月の売上は前年を15%上回った。心配していた消費税増税の反動は今のところみられない。一方、客単価は5%程度低下しているが、イベント企画時に想定した範囲内である。	
観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・観光目的やビジネス利用の個人予約が低調である。近隣アジアからの観光客や国内の団体旅行も横ばい傾向である。	
タクシー運転手	販売量の動き	・2～3月においては、前年と比べて若干の上積みという状況であったが、これはあくまでも消費税増税による駆け込み需要によるものであり、4月に入ってから、消費税増税の影響もあり、若干の落ち込みが現れている。	
タクシー運転手	販売量の動き	・雪が解けて暖かくなってきたため、利用客が減ってきた。3か月前と比較すると、約10%も落ち込んでいる。しかし、前年と比較すると、若干ではあるが売上が増えている。このため、景況感としては2～3か月前と変わらない。	
タクシー運転手	来客数の動き	・2月はまずまずの来客数があったが、3～4月は前年比で減少傾向にあり、全体ではあまり変化がみられない。	
美容室(経営者)	販売量の動き	・消費税増税の影響で月初めはかなり低調だったが、中旬から急に忙しくなり、月全体では前年並みの売上になりそうである。商品販売は3月の売上が前年比150%だったため、今月は低調だが、2か月分を平均すると前年並みの売上となる動きを示している。結果的に、消費税の影響はなかったとみている。	
美容室(経営者)	来客数の動き	・来客数に大きな変化はないが、客単価がやや低下している。	
やや悪くなっている	商店街(代表者)	単価の動き	・3月の消費税増税前の駆け込み需要の反動で、来客数が減少しており、客単価も低下している。特に高額商材はほとんど売れていないのが現状である。6月のボーナス商戦までに回復するのも厳しい状況である。
	商店街(代表者)	お客様の様子	・消費税増税後は、やはり客の買い方がかなり慎重になっており、商品を買わずに見ている客も多い。また、安い商品のなかから探そうという客の様子が見取れる。
	商店街(代表者)	来客数の動き	・消費税増税の影響とみられるが、昼間においては4月20日ごろまで来街者が減少していた。特に火曜日、水曜日は、地域の買物客のみならず、学生を始めたカラオケなどの遊興客も目に見えて減少していた。通常の客入りだったのは、価格に消費税アップを反映しづらい夜型飲食店のみであった。
	百貨店(売場主任)	お客様の様子	・来客数は前年比97%であったが、売上は前年比85%であった。3月の消費税増税前の駆け込み需要の反動もあるが、複数購入が減り、単品購入の傾向が強くなっている。また、販売量が前年比97%であることから、客単価の抑え込みが強く感じられる。
	スーパー(店長)	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要による反動減を考慮しても、想定以上に低迷している。
	スーパー(店長)	来客数の動き	・買上客数は、消費税増税後の4月前半から徐々に回復傾向にあるが、全体としてはやや悪くなっている。
	スーパー(役員)	来客数の動き	・消費税増税後の回復が遅く、ほぼ毎日が前年の売上を下回っている状況にある。商品単価が前年比103%、客1人当たりの平均買上点数が前年比96%となっており、客単価は前年比99%で推移している。前年を上回る部門も出てきているが、買上客数が前年を大きく下回っている状況であり、企画に対しても反応してもらえない。
	衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・消費税増税後の客足が鈍くなっている。
	家電量販店(店員)	来客数の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動で、来客数、売上とも前年を下回った。
	乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・全体的な受注量が前年比60%程度にとどまっている。特に個人客の購入は半分以下となっている。
乗用車販売店(役員)	販売量の動き	・消費税増税後の反動が予想よりも大きく、新車、中古車、車検入庫などが大きく減少している。	
自動車備品販売店(店長)	来客数の動き	・消費税増税前の駆け込み需要のあった3月の反動でやや悪くなっている。この傾向はボーナス時期まで続くことになる。	

	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・売上は、当初予測していた10%ダウンまでは至らなかったが、全体としてはやや悪い状況にある。ランチの売上が減少しているが、消費税増税の影響に加えて、他店との値引き合戦が響いている。市内の飲食店では、割引本を持ち込むと大幅値引きするシステムが流行しているが、当店を含めて参加していない店では、今後参加するかどうかで迷っている。一方、夕食の売上は若干の減少となっている。夜の一般客は減ったが、有名企業の歓送迎会での利用が目立った。市内の和食店などでは、週末に建設関連各社の利用が増えてきたようである。
	観光型ホテル (役員)	来客数の動き	・消費税増税後の予約件数が伸び悩んでいる。海外客は堅調に推移しているが、国内客の動きが非常に鈍い。
	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・消費税増税に加えて、管内の行政機関や企業の人事異動などで、4月前半のビジネス客の動きが停滞している。中旬以降は回復傾向にあるが、月全体としては前年割れとなっている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・4月は暖かい日が多く、雨の日が少なかったため、タクシーの利用が前年より減っている。タクシー1台当たりの売上も前年比マイナスであった。ただ、消費税増税にともなう乗り控えは、あまりみられない。
	パチンコ店(役員)	単価の動き	・消費税増税の影響で客足が鈍っている。
	住宅販売会社 (役員)	お客様の様子	・消費税率が8%になったが、分譲マンションの購入を検討している客の様子はそれほど変化していない。建築単価の上昇などで、すでに分譲マンションの価格が前年よりも上昇しているため、3%の増税分が分譲マンション購入の検討に悪影響を及ぼしていないようである。
悪く なっている	百貨店(売場主任)	お客様の様子	・4月1日から消費税が増税されたことで、客の様子が一変した。春物を含めて衣料品の動きが非常に厳しい状況にある。来客数は前年比90%台で推移しているが、売上が大きく減少しており、前年比80%台前半になりそうである。特に1階の化粧品関連が厳しいほか、催事場の物産関連も前年比70~80%台と非常に厳しい状況にある。
	百貨店(売場主任)	来客数の動き	・消費税増税前の駆け込み需要はさほど大きくなかったにもかかわらず、4月の売上は前年比20%減で推移しており、当初予想していた10%減よりも落ち込み幅が大きくなっている。
	百貨店(販売促進担当)	販売量の動き	・消費税増税後ということで、来客数、買上客数、買上率のすべてにおいて、前月の消費税増税前の駆け込み需要の反動が出ている。また、海外からの旅行者も減少しており、ゴールデンウィークに影響が出ることが懸念される。
	百貨店(販売促進担当)	それ以外	・消費税増税による買い控えが食品以外で顕著であり、来客数が大幅に落ち込んでいる。一方で、買上率は前年を大きく上回る高水準となっており、来店した顧客が確実に目的買いをしている傾向がみられる。
	コンビニ(エリア担当)	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要で3月は一時的に売上が増加したが、4月の反動は3月の増加分を大きく上回る結果となっている。スーパーや食品以外での前倒し消費の影響が大きくなっている。
	家電量販店(地区統括)	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要の反動が大きく、家電製品全般で大きく落ち込んでいる。
	乗用車販売店(従業員)	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要のしわ寄せがきている。
	その他専門店[医薬品](経営者)	お客様の様子	・前月のにわか景気とは一転して、予想どおり客が商品を買わない、買う気がないといった状況が続いている。同じような状況がしばらく続くことになれば厳しい。
	住宅販売会社(経営者)	販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要が終わり、高額商材を中心に消費が相当冷え込んでいる。
企業 動向 関連 (北海道)	良く なっている	-	-
	やや良く なっている	その他サービス業[ソフトウェア開発](経営者)	受注量や販売量の動き

変わらない	建設業（従業員）	取引先の様子	・建設業では取引先による格差が生じている。本州と取引する鉄鋼加工業では年内フル稼働が見込まれているが、道内との取引に限定した加工業ではそれほどの状況とはなっていない。
	建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・公共工事、民間工事とも受注状況はまずまずである。また、民間建築物の引き合いも、引き続きみられている。
	輸送業（営業担当）	取引先の様子	・段ボール生産工場の3月の生産が消費税増税対策で増産となったため、4月は反動が出ると予想していたが、実際は落ち込みもなく順調な生産となった。雑貨のトレーラ輸送についても、4月は全国的に非常に順調に推移している。
	輸送業（支店長）	受注量や販売量の動き	・4月からの消費税増税による反動が出るのはまだ先とみているが、前期からの計画が変更となるわけでもないため、年度予測に対する悲観的な意見はまずみられない。
	通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・3か月前と比較しても、受注量、販売量ともに大きな変化がなく、景況感としてはやや良い状況が持続している。
	司法書士	取引先の様子	・消費税増税による動向を観察していたが、現在のところ、大きな変化もなく推移している。今後も、建設、不動産取引とも関連業界に大きな変化はないとみている。
	司法書士	取引先の様子	・例年であれば、建物の新築やこれにともなう土地の売買が増加する時期であるが、全くの足踏み状態であり、売買の動きがみられない。
	司法書士	取引先の様子	・消費税増税前の高額商材の先買いの影響は当然あるが、一般的な商品の買い控えなどは感じられないため、気分的には楽観視できるのではないかと期待している。
やや悪くなっている	食料品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・消費税増税後の買い控えが発生している。
	家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要が終わったことで、4月の受注が著しく減少している。
	金融業（企画担当）	それ以外	・消費税増税により住宅着工が落ち込んでいる。個人消費も百貨店や乗用車の売上に反動減がみられる。建設技能者などの人手不足感も強く、工事の遅れが出ている。
	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	受注量や販売量の動き	・売上としては好調だったが、消費税増税前の駆け込み需要の反動減が影響し、販売量が減少している。また、一部の溶接材料が品薄で入手困難であったことも、販売量の減少につながっている。
悪くなっている	-	-	-
雇用関連 (北海道)	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・求人ニーズは、心配された消費税増税の影響を感じることもなく推移している。先行きの不安はまだあるにしても、目先の忙しさや人手不足を解消しようとする動きに変化はみられず、むしろもう一段強くなった感さえがある。人材不足から派遣会社の求人が増えており、小売、飲食店などの個人消費系の業界では人材確保や維持に苦慮している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年から9.5%増加し、50か月連続で前年を上回った。月間有効求人数も前年から12.6%増加し、50か月連続で前年を上回った。
	学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・製造業、小売業など、景気に比較的左右されやすい業種についても、求人数の伸びが続いている。 ・企業側の採用活動が非常に活発である。内定出しも前年より時期が早いうえ、件数も増えている。各企業の採用予定人数も概ね増加している。
変わらない	人材派遣会社（社員）	採用者数の動き	・パートなどの求人が増加傾向にあり、派遣のニーズも増加している。人材紹介においても、建設、管理部門、ITなどの求人が拡大しているが、企業側の求めるスキルと求職者側のスキルにギャップがあり、マッチングが難しくなっている。事務処理であれば、パートや派遣で充足できるが、正社員の採用がスムーズにいかねば、企業の業績拡大につながらないという懸念がある。建設業などが顕著な例であるが、サービス業においても営業マンの採用遅れは、売上に影響を及ぼしかねない。
	人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・有期雇用かつ低賃金の求人が多い。

	求人情報誌製作会社（編集者）	求職者数の動き	・求人件数と比較して、全業種、全職種で求職者の減少とクオリティの低下が顕在化してきている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数に関しては、各種景気動向の発表と同じように、年初から底堅く推移しており、経済状況が一段上がっている。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・3月の新規求人数は前年比1.8%の減少となった。新規求職者数は前年比3.0%の増加となった。月間有効求人倍率は0.87倍となり、前年の0.77倍を0.10ポイント上回った。ただし、新規求人数のうち、正社員求人の占める割合は42.9%と相変わらず高く、求人者と求職者との間における職種や労働条件のミスマッチも少なくないことから、依然として厳しい状況にある。
やや悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の売上が、約2年半ぶりに前年を下回った。
	職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・新規求人に占めるパート求人の割合に増加傾向がみられる。また、新規求職者数の減少が進むなかで、パート就労を希望する求職者の減少幅がフルタイムの減少幅と比べて小さいなど、雇用形態の変化がみられる。
悪くなっている	-	-	-